

「伝」

校長 滝口健二

いよいよ夏休み、まだ総合体育大会やコンクールが終わっていない部活もありますがぜひ全力で取り組み、悔いの残らぬようにしてほしいです。

さて今年の夏休みには国際的なビッグイベントであるオリンピック・パラリンピックが東京を主な会場として予定されています。千葉市もいくつかの競技が開催されることになっています。開催そのものや観客の入場には賛否あるところですが、出場権を得た選手、アスリートの立場からすれば、開催できることはとてもありがたいことに違いありません。体操日本代表を勝ち取った内村航平選手もその一人です。若手の台頭や自身のけが等で思うような成績を残せなかった2020シーズン。コロナの影響で1年延期されなければ、出場は厳しかったと本人も振り返っています。さらに個人総合での出場をあきらめ、鉄棒1本に絞っての選考会。なにがなんでもという強い思いで臨み、見事に代表の座をつかみ取りました。その後のTVのインタビューでオリンピックの出場を漢字1文字で表すと「伝」だと答えていました。自分の演技によって観てくれている人に勇気と感動を「伝」えたいということ。もう一つは、これからの体操界を担う若い世代に、オリンピックにおける体操とはどういうものなのかを「伝」える責任があるということだそうです。魂の演技をぜひ観たいと思います。

もう一人。信じられない奇跡の復活をとげた、競泳の池江里佳子選手。誰もが絶望的と思ったであろう白血病からの復活でした。1日トレーニングを休めば1日後退するともいわれるスポーツの世界で半年以上も病床に伏し、やせ細った体でのリハビリからの代表入り。当然2020年の開催なら出場どころかりハビリさえままたまならなかったところですが、あきらめない気持ちの大切さや勇気を日本中に「伝」えていると思います。

どんな人にもそれぞれ、その種目と向き合ってきた人生があると思います。不断の努力と運で代表を勝ち取った人。その陰で、残念な結果に終わった人。1年延期したことで引退を余儀なくされた人。延期がなければ代表入りできた人等々・・・体操や水泳に限らず全ての種目でいろいろなドラマがあったことだと想像できます。勇気と感動を「伝」えようとするアスリート達の気持ちに思いを巡らせ、こちらからのエネルギーが少しでも「伝」わるよう、私も遠くから応援したいと思います。